

N⁺ 名市大のDNA

コロナを超えて

2020年は新型コロナウイルスの世界的大流行と共に始まりを迎えました。実空間での対面が不可能な状況下において、デジタル情報技術の進歩は、日々の生活の不便さをある程度までは補ってくれました。しかし、研究や教育あるいは日常の仕事を進める上で必要不可欠な人と人との絆を、仮想空間上で深めるのは非常に困難であることも痛感致しました。

新たに到来するポストコロナ社会では、実空間上での情報共有が、より貴重で価値あるものとなることでしょう。実空間と情報空間が高次に融合した新たな社会の形態は、持続可能で多様性を尊重した創造的社會であることが必要です。

名市大の英知を結集して今後予測される様々な問題に対し、人類の新しい社会を形づくるのが重要です。皆様方と共に、産学官金の連携を通じて、今までの考え方にとらわれない新たな技術ならびに生活様式を探索し、ポストコロナ時代における進化した明るい未来の形成に貢献できれば、と思っております。

File No.6



副理事(研究・産学官イノベーション) 芸術工学研究科 教授

松本 貴裕

Page

名市大のDNA・特集

- ・コロナを超えて …1
- ・令和2年度科学研究費助成事業の採択状況 …1

研究

- ・研究所訪問 医学研究科 脳神経科学研究所 …2

産学官連携

- ・外部資金獲得・産学官連携の状況 …3

TOPICS

研究・産学官連携 最新のニュース

- ・名市大の研究力を分析します! …4
- ・アントレプレナー(起業家) 育成・支援の強化へ …4
- ・「Tongaliプロジェクト」に参加 …4
- ・先端研究設備整備補助事業に 公立大学として唯一採択 …4

特集 Feature

令和2年度科学研究費助成事業の採択状況

(令和2年4月1日時点)

令和2年度の本学の新規採択件数は164件となり、平成31年度と比べると件数は減少していますが、採択率は昨年に引き続き37%を超える高水準を保っています。また、研究種目毎に採択率を見ても「基盤研究」や「若手研究」は、いずれも全国の平均採択率より高く、特に「若手研究」は50%に迫る非常に高い採択率となりました。

本学では、科研費セミナーやピアレビュー、URAによる相談受付といった申請支援のほか、科研費不採択時の研究中断リスクを軽減させるセーフティネットとしての特別研究奨励費等、科研費に関する様々な支援策を行っています。今後も積極的にご活用いただき、研究活動にお役立てください。

	新規申請数 (件)			新規採択数 (件)			採択率 (%)			全国採択率 (%)
	H31	R2	増減	H31	R2	増減	H31	R2	増減	R2
新学術領域研究	29	17	△12	6	2	△4	20.7	11.8	△8.9	22.5
基盤研究(A)	5	4	△1	2	2	0	40.0	50.0	10.0	24.3
基盤研究(B)	52	49	△3	18	16	△2	34.6	32.7	△2.0	27.8
基盤研究(C)	226	223	△3	75	73	△2	33.2	32.7	△0.5	28.4
若手研究	156	144	△12	79	71	△8	50.6	49.3	△1.3	40.1
計	468	437	△31	180	164	△16	38.5	37.5	△0.9	28.6

医学研究科 脳神経科学研究所の取り組みや、先生方の研究を一部ご紹介いたします。

医学研究科長・脳神経科学研究所長 道川 誠 教授

脳神経科学研究所は、脳神経科学領域における基礎研究推進を目的として、2019年10月に設置されました。脳の細胞や神経回路の発達機構や機能を解明するとともに、様々な脳神経疾患の病因・病態解明と診断・予防法の研究、さらには創薬・再生医療など治療法の開発に取り組んでいます。分子・細胞・個体レベルの様々なアプローチによる多角的かつ高水準の脳神経科学研究によって、超高齢社会で増大する認知症・脳卒中などの加齢脳疾患や、社会的関心が高い神経発達症、精神疾患などの克服を目指します。



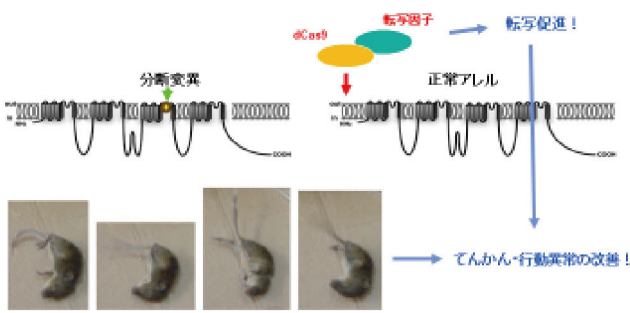
医学研究科 脳神経科学研究所
神経発達症遺伝学分野
山川 和弘 教授

自閉症などの神経発達障害の患者さんの数が近年増加してきていることが大きな社会的問題となっています。神経発達障害には、遺伝子の異常の寄与が大きいことがこれまでの研究によって明らかにされ、実際に近年のゲノム解析技術の進歩により、発達障害についても多くの原因遺伝子が同定されてきています。

我々のグループでは、発達障害や知的障害、てんかんの発症に関わる複数の遺伝子の同定、モデル動物の作成や、それらを用いた発症機序の解明、更には遺伝子治療法を含め全く新規で真に有効な治療法の開発を目指して研究を進めています(山川グループ)。また、リウマチ、間質性肺炎などの免疫疾患研究も進めています(金澤グループ)。



神経発達症遺伝学分野のみなさん



てんかん・発達障害モデルマウスの発症機構解明と遺伝子治療
(Ogiwara et al., J Neurosci 27:5903-5914, 2007; Ito et al., Neurobiol Dis 49:29-40, 2013; Tatsukawa T. et al. Neurobiol Dis 112:24-34, 2018; Yamagata et al., Neurobiol Dis 141:104954, 2020)

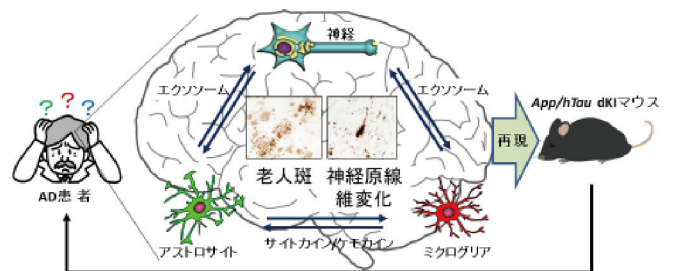
医学研究科 脳神経科学研究所
認知症科学分野
齊藤 貴志 教授

認知症の中でも最も患者数が多いアルツハイマー病(AD)は、超高齢化社会において克服すべき喫緊の課題です。ADを発症する数十年前から、ADに特徴的な病理:老人斑と神経原線維変化が、脳内に出現することが知られています。これらAD病理をモデル動物の脳内で再現させることで、発症メカニズムの解明に役立てることが認知症科学分野の研究戦略です。

我々はこれまでに、より蓋然性の高いADモデルマウスの創出を手掛けてきました。App/hTau double knockinマウスは、AD病理成分をヒト化した世界で唯一のモデルマウスです。2020年度の特別研究奨励費に採択して頂いたことで、このモデルマウスを駆使して“神経-グリア連関”に着目して、世界をリードする研究を推進していきます。



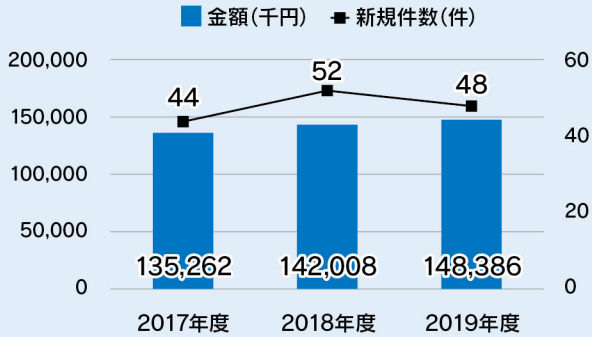
認知症科学分野のみなさん



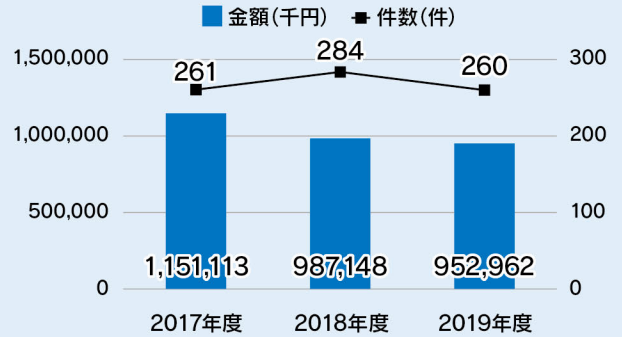
AD発症メカニズムの解明から、治療・予防・発症遅延薬の開発
早期診断法開発のためのバイオマーカーの同定

Saito et al, Nat Med 11, 434-439, 2005; Saito et al, Nat Neurosci 14, 1023-1032, 2011; Saito et al, Nat Neurosci 17, 661-663, 2014; Hashimoto et al, Nat Commun 10, 2394, 2019

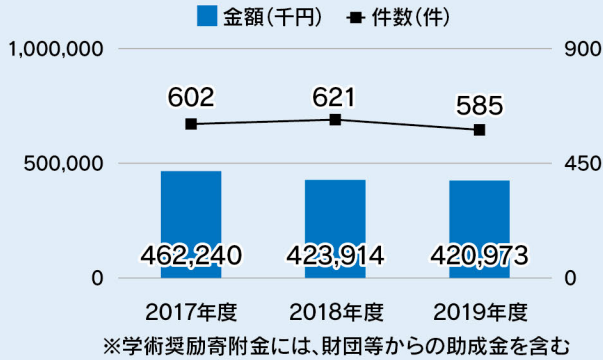
共同研究



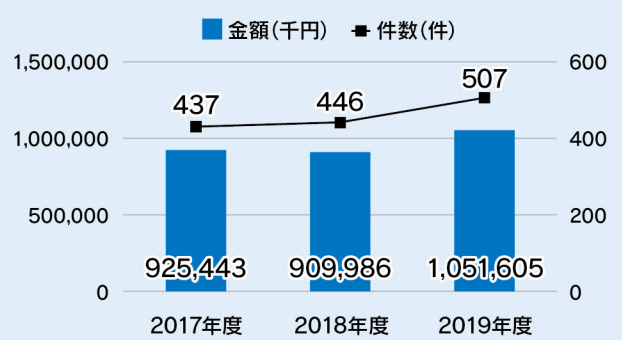
受託研究



学術奨励寄附金

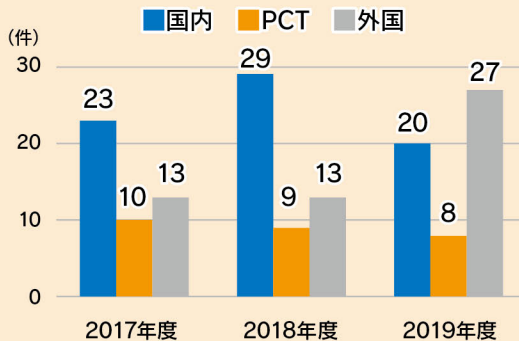


科学研究費補助金等

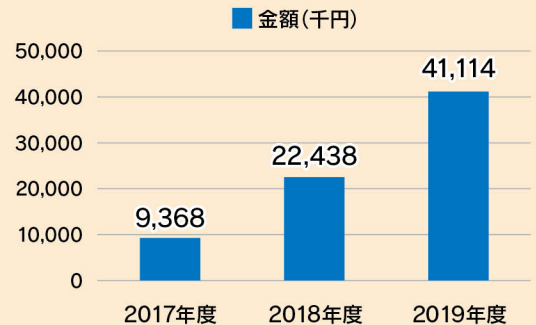


2019年度の科学研究費補助金等は大幅な採択件数の増加に伴い、受入額が初めて10億円に達しました。

特許出願件数



特許権実施等収入



特許権実施等収入は大幅な増加傾向にあり、2018年度の特許権実施等収入は全国26位、公立大学2位にランクイン※しました。2019年は昨年度を大きく上回っており、さらに上位にランクインすると見込まれます。

※文部科学省 令和2年1月17日公表「大学等における産学連携等実施状況について」特許権実施等収入 個別実績より

名市大の研究力を分析します！



学長補佐(研究・産学官イノベーション) 医学研究科 教授
澤本 和延

研究・産学官連携推進機構会議の下に「研究力分析ワーキンググループ」(座長:澤本和延 医学研究科 教授)が設置されました。

ワーキンググループでは、各研究科の強みを分析できる教員人材の育成、研究業績に関する客観的データの活用方法の検討を通して、本学の研究の強みを把握し、研究推進施策への反映に繋がります。

	役職又は所属	補職	氏名
座長	学長補佐 (研究・産学官イノベーション)	教授	澤本 和延
メンバー	医学研究科	准教授	谷田 諭史
	医学研究科	特任講師	柿崎 真沙子
	薬学研究科	講師	寺坂 和祥
	経済学研究科	教授	奥田 真也
	人間文化研究科	講師	アンドレア カステリョーニ
	芸術工学研究科	准教授	影山 正幸
	看護学研究科	准教授	中神 克之
	理学研究科	教授	青柳 忍
事務局	産学官共創 イノベーションセンター	特任講師	奥津 佐恵子

アントレプレナー(起業家)育成・支援の強化へ

産学官共創イノベーションセンターの下に「アントレプレナー(起業家)育成・支援ワーキンググループ」(座長:鵜飼宏成 経済学研究科 教授)が設置されました。大学は、人材育成やスタートアップ企業の支援等を通じて、イノベーション創出に貢献することが期待されています。ワーキンググループでは、その期待に応えるべく、アントレプレナーシップ教育、アントレプレナー育成、大学発ベンチャー起業支援の各段階に応じた支援内容について検討を進めます。



副理事(収益事業、起業家教育) 経済学研究科 教授
鵜飼 宏成

「Tongaliプロジェクト」に参加

東海地区の大学で構成される起業家育成プロジェクトである「Tongaliプロジェクト」に名古屋市立大学も参加することになりました。

イノベーション創出による産業創造・社会変革の実現、東海地区の産業の活性化および雇用創出の貢献のための人材育成を目的とする本プロジェクトでは、年間を通じてピッチコンテスト等のイベント実施や起業支援を行っています。本プロジェクトを通じ、本学の起業家教育を推進していきます。



実施機関・連携機関

名古屋大学・豊橋技術科学大学・名古屋工業大学
岐阜大学・三重大学・名城大学・中京大学
藤田医科大学・名古屋市立大学

先端研究設備整備補助事業に公立大学として唯一採択

文部科学省の「先端研究設備整備補助事業(研究活動再開等のための研究設備の遠隔化・自動化による環境整備)」に公立大学として唯一採択されました。(91機関の応募中30機関採択)

補助事業費総額64,734千円は、学生・教職員等を新型コロナウイルス感染症の脅威から守りつつ、円滑に研究活動を実施するための環境整備に充てられます。

連絡先
Contacts

～産学官金連携の総合窓口～

産学官共創イノベーションセンター
〒467-8601 名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1 桜山キャンパス本部棟2階
☎052-853-8041 ncu-innovation@sec.nagoya-cu.ac.jp



トップ>図書館・病院・附属施設>附属施設>産学官共創イノベーションセンター

